

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦  
TWIN RING MOTEGI SUPERBIKE RACE

栃木県 ツインリンクもてぎ(1周=4.801379km)

■ 渥美 心 JSB1000 予選:17番手 (タイム:1分52秒440) 決勝:21位

■ 岡崎静夏 J-GP3 予選:4番手 (タイム:2分02秒589) 決勝:8位

天候:2017年6月10日(土)曇り コース:ドライ

6月11日(日)晴れ コース:ドライ

観客動員数: 12,900人(2日間合計)



**080** 渥美 心 Cocoro Atsumi  
class : JSB1000  
machine : Honda CBR1000RR

**6** 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki  
class : J-GP3  
machine : TSR3

## 光る走りを見せた岡崎静夏



全日本ロードレース選手権は、シリーズ第4戦を栃木県・ツインリンクもてぎで迎えた。JSB1000クラスは、鈴鹿2&4レース、SUGO200mileレースとセミ耐久レースが続いていたが、今回は純粋なスプリントレースで争われた。とは言っても1周約4.8kmのツインリンクもてぎロードコースを23周というのは、かなりの長丁場となる。

JSB1000ルーキーの渥美にとって、この23周という距離は未知の世界であり、マシンの状態やタイヤのマネジメントなど、ライダーに要求されるハードルは、かなり高いと言える。そんな心配を余所に事前テストでは、1分51秒6を出し、まずまずの手応えを得ていたが、レースウイークに入ると路面温度が上がったこともあり、なかなかタイムを縮められないでいた。公式予選でも、マシンセットはよくなってくるが、1分52秒を切れずに17番手となる。

一方、J-GP3クラスの岡崎静夏は、マシンを着実に仕上げて来ていた。その成果が出たのが公式予選だった。計測3周目で自己ベストを更新する2分02秒589をマーク! このままプロ

ントロウを獲得かと思われたが、最後にタイムアップしたライダーに抜かれ惜しくも4番手。それでも自己最高グリッドを大きく更新。決勝に向けても、いい流れに乗っていた。

決勝日も快晴となり、ようやくドライコンディションでのレースとなった。J-GP3クラスは、20周で争われた。岡崎は、好スタートを切り、3番手で1コーナーに進入。そのままオープニングラップは、3番手で終え2周目に入っていく。初表彰台への期待が高まってきていたが、徐々にポジションを落とすとトップグループについて行けず、後方の集団に飲み込まれてしまう。セカンドグループでの戦いと



なったが、その集団のトップでゴールすることを、しっかり組み立て実行した岡崎は、8位でチェッカーフラッグを受けたのだ。

JSB1000クラスの渥美は、コンスタントなペースで走ることができていたがアベレージタイムが低く、下位でバトルを展開。レース終盤は、厳しい状況となっていたが23周をしっかりと走り完走を果たした。



### 渥美 心コメント

「事前テストで1分51秒6まで出ていたのですが、そのタイムを暑くなったからレースウイークにクリアできませんでした。いろいろ試したのですが、結局、うまくまとまらないままレースを迎えてしまいました。決勝21位と完走してノーポイントというのは初めてですし、不甲斐なさを感じています。バイクはチームのおかげで、よかったですし、上位に進出するためには、まだまだ足りないことが多いことが分かりました。気持ちをオートポリスに切り換えて事前テストから、しっかり前に進めるように頑張ります」

### 岡崎 静夏コメント

「序盤のペースアップが課題です。序盤に接触があったのですがそこからトップグループについて行けず、セカンドグループに飲み込まれてしまいました。昨年、日本グランプリで世界のライダーのすごさを見ました。それ以来のレースとなりましたが、全日本では、コーナーですごく速いというライダーは見当たりませんでした。マシンは小原さんを始め、チームのおかげでいい状態でしたし、後は自分自身の問題なので、次回こそいい走りしたいと思います」

### 小原 監督コメント

「岡崎は、予選で一発タイムを出せるようになってきて、決勝でもいい方向に行く兆しは見えていたのですが、決勝では、トップグループで積極的に前に出て行くような走りができなかったため、何が足りなかったのかを考えて次戦に臨んで欲しいですね。渥美は、事前テストのタイムも出なかったため、何が原因だったのかを、しっかり洗い出していきたいですね。次回のオートポリスは、二人ともシーズン前半戦を締めくくるレースになるよう、チーム全体でバックアップして行こうと思っています」